



会議議事録

会議名	2021年度 第2回 認知症対策検討委員会 会議
-----	--------------------------

開催概要

開催日時	2021年 8月 31日(火) (12:00 ~ 12:30)	開始時刻	終了時刻
開催場所	Web 会議		
出席者	担当常務理事/委員長: 田中 志子 副委員長: 山口 晴保 委員: 緒方 千代美、砂川 直美、中間 浩一、山本 恵利香 吉田 賢史、萩原 洋平		

敬称略

議事内容

【今年度の研修会について】

前回会議にて、研修会の講師を伊東美緒先生にお願いする話でしたが、常務理事会議にかけたところ、ぜひ兵庫で行われるリハビリテーション・ケア合同研究大会(以下「リハ・ケア大会」と称する)で多くの方に聴いてもらった方が良いとの提案があり、伊東先生には教育講演「BPSDを回避する声のかけ方とリハビリテーション」を行っていただくことになる。そこで、主催が異なるため、日本リハビリテーション病院・施設協会(以下「病院・施設協会」と称する)から改めて伊東先生に講師依頼をするか、または、別の講師を考えていくのか委員の方の意見を伺えればと思う。(田中委員長)

→メール上で伊東先生の講演内容を確認させていただき、リハ・ケア大会に現場のスタッフがどの程度参加できるのかまだ確定できていない段階のため、この委員会でも伊東先生にお話しいただき、聴きたいと思う。(砂川)

→伊東先生の講演は何回も聞いているが、何回聴いても面白い。また、伊東先生はとても引き出しが広いので、もし講演を依頼するのであれば、リハ・ケア大会の方は講演のみのため、例えばグループワークを入れるなど形式を変える。または、事前に質問を集めてそれに答えてもらうような形など、やり方を工夫することで内容や理念のところは一緒でも中身は違う研修になってくると思う。講演をするにしても、質疑応答の時間を長く設けるなども考えられる。(山口副委員長)

→伊東先生のお話を伺えるのを楽しみにしている。研修会という形をとるのであれば、研修会ならではの形にしていけば、私たちもとても参考になると思う。(中間)

→個人的にも伊東先生の講演にとっても興味があるので、ぜひこちらの委員会でもお願いできればと思う。(萩原)

→伊東先生の講演をとっても楽しみにしており、それに加えて、もし可能であれば講演を観た方も付加価値として色々勉強できるグループワークなどの形だと良いと感じる。(吉田)



→別の機会を設けて講演いただきたいと思う。(緒方)

→もう一度、伊東先生に講演していただけたらと思う。(山本)

満場一致ということで、再度、伊東先生に1時間ぐらいの基調講演のあと、グループワークを1時間設けるような研修プログラムで願います。双方向のディスカッションを伊東先生と行えるような研修企画を立てていきたいと思う。常務理事会の時に提案をさせていただき、許可が下りたら伊東先生に私の方から講師依頼の連絡をしたいと思う。

グループワークについては、事前に参加者にアンケートを出していただくと意外と同じような内容になることが多いので、私の提案としては、例えば「帰宅欲求が強い人に対して」や「入浴拒否がある人に対して」・「暴言・暴力がある人に対して」など、委員がファシリテーターに入れるグループ数ぐらいの症例を設定し、参加者をランダムに振り分けグループワークを実施するのも1つの方法かと思う。参加者に希望を伺うと偏りがでると思われる。(田中委員長)

→参加者の希望通りに分けるというのは偏りがでると思うので、委員会の方で分けるので良いと思う。(砂川)

→グループの分け方については、グループワークの内容は後から共有できるので、参加者の希望通りではなく、各病院から複数人参加することもあるので、同じ病院の人たちが重ならないようにだけ配慮すれば良いと思う。

先日、伊東先生講師で「山口塾」というものを行った。その時は、1時間の講演、その後グループワークを40分とした。グループワークの際、グループの意見を全部チャットに書き込んでいただき、その後、グループ毎に出た意見に対して伊東先生に答えていただくという形をとり、そこは盛り上がり盛況だった。チャットは、グループ発表を効率的に行うために使用し、各グループから出た意見を書き込んでいただくと、全グループからの意見が全部チャットに出てきます。それは記録に残り保存もできるので、そういう形で進めた。

田中委員長の提案のように、いくつかの症例でグループを分け、また、1つの症例に対して2・3グループあっても良いと思う。そのような形で行うと、伊東先生の講演に加え、それぞれの事例について深いディスカッションができると思うので、良い企画だと思う。(山口副委員長)

→グループの分けに関しては希望通りでなくても良いかと思う。各症例について考えていただき、後で共有する形で良いか考える。(萩原)

→症例は、病院や施設の中でありがちなことを挙げ、参加者が学びを持ち帰れるような内容であれば良いと思う。(中間)

→やはり希望通りとなると偏りが出るとするのは最もだと感じたところだが、こういうところをやりたいたいと希望される方も中にはいるかと思う。ランダムに分けても良いとは思いますが、可能であれば希



望は伺っておき、人数に余裕があれば希望された方を優先的に振り分ける配慮があれば、参加する方も自分の興味あるところに入れて満足度も高いと感じる。(吉田)

→グループの振り分けはランダムで良いと思う。よくある困難症例があれば興味があるのかと思う。(緒方)

→症例でのグループワークに賛成。グループワークで出た意見に対して、最後に伊東先生からフィードバックなどがあると良い研修会になると感じる。(山本)

まとめると、グループワークは行うとして、チャットの使用については、山口副委員長の「山口塾」を参考にさせていただき、同様の形で行う方向で考えていく。グループ分けについては、参加者が確定したところで病院と職種が重ならないように、できるだけ多職種で分けられるように振り分けを行う。希望については、病院・施設協会なので、概ね病棟やフロアの課題となるかと思う。そのため、「帰宅願望・帰宅欲求」・「暴言・暴力」・「入浴の拒否」あたりが3大困りごとに挙がると思う。いずれも陽性のBPSDになるが、陰性のBPSD「食べない」や「元気がない」など、その様なところにはまだ一般的には気が付かないかと思うので、おそらく陽性の目立った動きのBPSDに困っていると思う。そのため、陽性のBPSDのうち3症例ぐらいを設け、伊東先生に「こんなやり方もあるのでは」のようなディスカッションをしていただく。(田中委員長)

「山口塾」は全体で3時間だったので、グループワークを40分設けたが、今回企画している研修会が全部で2時間半であればグループワークは30分ぐらいと考える。1時間の講演後10分の休憩、その後30分ぐらいのグループワークを行い、チャットに書き込みをする。書き込みも10分ぐらいはかかる。そこで各グループにプレゼンテーションをしていただき、その都度、伊東先生にコメントをいただく。最後にまとめると、概ね2時間半ぐらいになると思う。(山口副委員長)

委員の方には各グループに1人ずつ入り、書記(チャットの書き込み)を担当し、参加者には自由に発言していただき十分に討論していただく。そのような形で検討していければと思う。常務理事会の方で研修委員と研修内容について照らし合わせを行いたいと思う。研修会の時期については、他の研修の日程を考慮した上で参加しやすい時期を選んで決めたいと考える。参加人数については30人ぐらいとし、1画面複数人での参加も可能とする。ただし、グループワークが前提なので、多くても2・3人ぐらいとする。症例は私の方で作るので、これで進めていきたいと思う。(田中委員長)

次回予定	年 月 日 () (開始時刻 : ~ 終了時刻 :)
------	-------------------------------

議事録作成日	2021年9月3日	議事録作成者	萩原 洋平
--------	-----------	--------	-------

委員会議事録は理事会資料として提出します。
 会議終了後、1週間以内にメールで事務局へご提出ください。[提出先: info@rehakyoh.jp]